

斜里地方における蝶の 分布と発生時期

北海道斜里高等学校生物部

1. 動機及び目的

私たちの住んでいる斜里町には多種多様の蝶が棲息しています。そしてその蝶の分布、発生時期がどうなっているのかを調べてみました。

2. 調査範囲 (図1)

A地区は市街地と郊外で平地である。B地区は以久科原生花園で道々宇登呂斜里線以北の東側のオホーツク海沿岸である。C地区は大栄・美咲で西側のオホーツク海沿岸である。D地区は来運・川上・三井で農耕地や牧草地が多い。川上は平地、来運・三井は山間部寄りである。

E地区は朱円・以久科南で道々宇登呂斜里以南で農耕地で平地である。

F地区は豊里・富士・越川で山間部である。

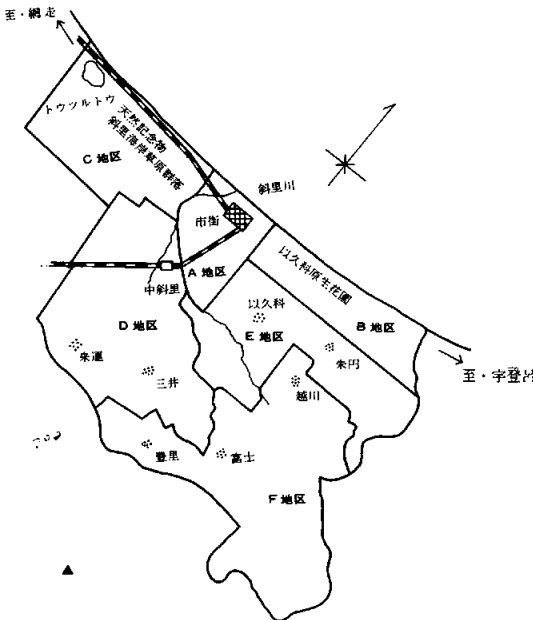


図1. 調査範囲

3. 調査方法

休日か放課後に生物部員が2~3人ごとに別れて採集した。それを種類別の地図に場所を、グラフに日付をそれぞれ赤い印または点を記入した。

4. 調査期間

1978年4月~同年10月までの調査資料が主体となり、1977年と1976年の資料を補充的に加えた。

5. 分布と発生時期

① アゲハチョウ科

キアゲハはセリ科の植物を食草とし個体数は平地に多く山間部は少ない。エゾヒメギフチョウはオクエゾサイシンを食草とし幼虫は日陰、成虫は日向を好む。D地区の来運、F地区の富士に分布が限ぎられている。ヒメウスバシロチョウはエゾエンゴサク、エゾキケマンを食草とし成虫は日向の草原に棲息するが、斜里では個体が少ないと思



われる。キアゲハの発生は全国と比較すると約1ヶ月遅れて発生する。エゾヒメギフチョウとヒメウスバシロチョウはほぼ同じである。その他のアゲハチョウ科のものは資料不足なので記載しなかった。

② シロチョウ科

モンシロチョウはアブラナ科の栽培野菜(キャベツ、ハクサイ、アブラナ、ダイコンなど)を食草とし個体数は平地に多く山地に少ない。エゾシロチョウの食草はエゾノコリンゴ、シウリザクラ

などであり、生活が旺盛でどこにでもみられる。エゾヒメシロチョウの食草はクサフジで羽が弱いため行動範囲が狭く、林間の無風地帯にみられ海岸沿の林間部に分布する。ツマキチョウの食草はハマハタザオで斜里においては個体数は少ない。

エゾヒメシロチョウは全国的にみると約1ヶ月遅れ、ツマキチョウは1ヶ月～1ヶ月半遅れて発生する。シロチョウ科は一般に海岸草原の日あたりの良い所が最適であると思われる。その他のシロチョウ科の種類は資料不足のため記載しなかった。

表1. アゲハチョウ科の分布と発生時期

	分 布						発 生 時 期																				
	A	B	C	D	E	F	4 月			5 月			6 月			7 月			8 月			9 月			10 月		
	地	地	地	地	地	地	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
キ ア ゲ ハ	○	○	○	○	○	○																					
エゾヒメギフチョウ				○		○																					
ヒメウスバシロチョウ		○			○	○																					

表2. シロチョウ科の分布と発生時期

	分 布						発 生 時 期																				
	A	B	C	D	E	F	4 月			5 月			6 月			7 月			8 月			9 月			10 月		
	地	地	地	地	地	地	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
モンシロチョウ	○	○	○	○	○	○																					
エゾシロチョウ	○	○	○		○	○																					
エゾヒメシロチョウ	○	○	○		○																						
ツマキチョウ	○	○	○	○	○	○																					

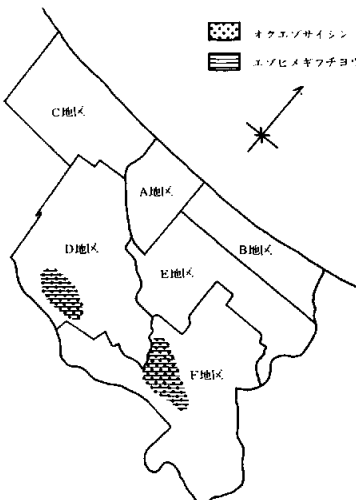


図2. アゲハチョウ科の分布の具体例 (エゾヒメギフチョウとオウエゾサイシン)

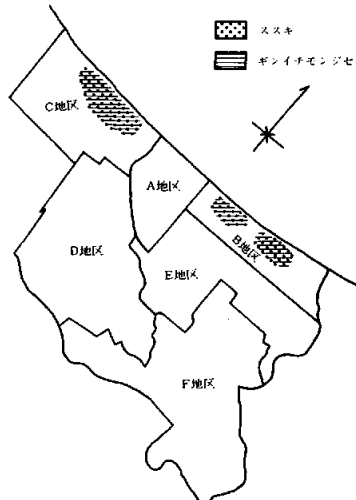


図3. セセリチョウ科の分布の具体例 (ギンイチモンジセリとムスキ)

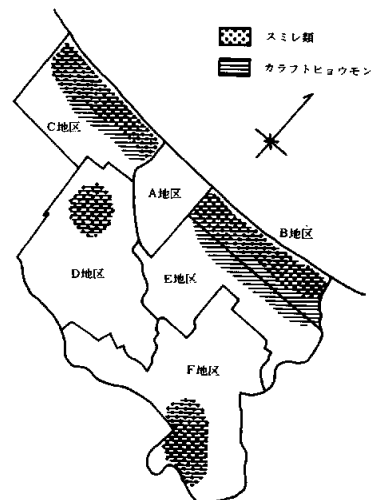


図4. タテハチョウ科の分布の具体例 (カラフトヒヨウモンとスマイレ類)

表3. ジャノメチョウ科の分布と発生時期

	分 布						発 生 時 期																				
	A	B	C	D	E	F	4 月			5 月			6 月			7 月			8 月			9 月			10 月		
	地 区	地 区	地 区	地 区	地 区	地 区	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬	下 旬
ヒメウラナミジャノメ	○	○		○																							
シロオビヒメヒカゲ	○	○	○		○																						
ベニヒカゲ		○			○																						
クロヒカゲ		○		○	○																						
キマダラヒカゲ	○	○	○	○	○	○																					
ヒメキマダラヒカゲ						○																					

表4. セセリチョウ科の分布と発生時期

	分 布						発 生 時 期																				
	A	B	C	D	E	F	4 月			5 月			6 月			7 月			8 月			9 月			10 月		
	地 区	地 区	地 区	地 区	地 区	地 区	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬	下 旬
チャマダラセセリ		○																									
ミヤマセセリ	○	○	○		○																						
ギンイチモンジセセリ		○	○																								
コキマダラセセリ	○	○	○	○	○	○																					
コチャパネセセリ	○	○	○	○	○	○																					

③ ジャノメチョウ科

ヒメウラナミジャノメはイネ科の植物を食草とし各地区の草原に分布する。シロオビヒメヒカゲは明るい草原に棲息する。ベニヒカゲはB地区の以久科原生花園、E地区の朱円、以久科南の一部に分布が限られる。斜里では個体数が少ないし晴れないと姿を現わさないという特色がある。

クロヒカゲは日陰を好み、ササ類を食草としている。キマダラヒカゲやヤマキマダラヒカゲは山地に、サトキマダラヒカゲは平地に棲み分けをするが、

斜里においては棲み分けはみられない。ヒメキマダラヒカゲの食草はササ類で斜里岳山麓に多くみられる。ヒメウラナミジャノメは全国の発生期時と比べると約一ヶ月遅れ、シロオビヒメヒカゲは1ヶ月～1ヶ月半程遅れて発生する。他の種類はほぼ同じである。その他のジャノメチョウ科の種類は資料不足のため記載しなかった。

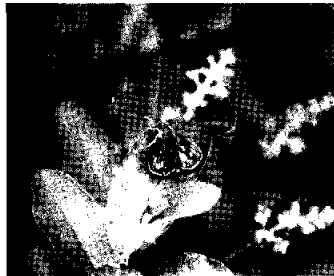
④ セセリチョウ科

チャマダラセセリはB地区の以久科原生花園に限ってみられミツパッチグリ、キジムシロを食草とする。ミヤマセセリは海岸沿に多く分布しカシ

表5. タテハチョウ科の分布と発生時期

	分 布						発 生 時 期																				
	A	B	C	D	E	F	4 月			5 月			6 月			7 月			8 月			9 月			10 月		
	地 区	地 区	地 区	地 区	地 区	地 区	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬	下 旬
クジャクチョウ	○	○	○	○	○	○				■	■	■	■	■	■	■	■										
シータテハ		○		○	○	○							■	■	■	■	■										
ヒメアカタテハ	○	○		○	○								■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
フタスジチョウ	○	○		○		○							■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
ギンボシヒョウモン	○	○	○		○								■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
カラフトヒョウモン			○	○	○	○							■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
ヒメカラフトヒョウモン						○							■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
コヒョウモン		○		○	○								■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
サカハチチョウ	○			○	○	○							■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
アカマダラ	○	○	○	○		○							■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
コムラサキ	○	○	○	○	○	○							■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	

ワ、ミズナラを食樹とする。ギンイチモンジセセリの食草はススキでありそのため海岸草原の日向を好み行動は緩慢で範囲はススキ周辺に限られる。コキマダラセセリ、コチャバナセセリの食草はササ類でなわぼりを持ち、羽が小さいため行動が俊敏である。セセリチョウ科の中で最も和名が長いカラフトタカネキマダラセセリは生物部内では未確認である



コキマダラセセリ
(雌雄はわからない)



フタスジチョウ
(雌雄はわからない)

が、1978年6月22日、小清水町野上峠にて2頭(雄・雌)、以前には富士で採集されている。その他のセセリチョウ科の種類は資料不足のため記載しなかった。

⑤ タテハチョウ科

クジャクチョウの食草はイラクサで各地に分布する。シータテハの食樹はニレで山間部に多い。ヒメアカタテハはゴボウ、イラクサを食草とし各地に広く分布する。フタスジチョウはシモツケを食草とし平地に多く分布する。ギンボシヒョウモンは平地の草原に多く夏眠するといわれているが、斜里は寒冷地のため夏眠しない。カラフトヒョウ

モンはスミレを食草とし各地に分布する。ヒメカラフトヒョウモンは山間部だけに分布しスミレを食草とする。コヒョウモンは林道の日向を好みオニシモツケを食草とする。サカハチチョウ、アカマダラの春型(赤っぽい)と夏型(黒っぽい)は別種のように異なっている。これは蛹のときの気温によって異なるためである。コムラサキは吸水のときだけ地上に降りて、普段は高木(ヤナギ類の高い所)になわぼりを作っている。その他のタテハチョウの種類は資料不足のため記載しなかった。

表 6. シジミチョウ科の分布と発生時期

	分 布						発 生 時 期																				
	A	B	C	D	E	F	4 月			5 月			6 月			7 月			8 月			9 月			10 月		
	地	地	地	地	地	地	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
ベニシジミ	○	○	○	○	○	○							■	■	■	■	■	■	■								
カバイロシジミ		○	○										■	■	■	■	■	■									
ツバメシジミ	○	○		○	○	○				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
コツバメ		○		○	○	○		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
ルリシジミ	○	○											■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■		
カラスシジミ		○			○																						
オナガシジミ		○			○																						
ウスイロオナガシジミ		○			○																						
ジョウザンミドリシジミ		○	○	○		○																					
ウラゴマダラシジミ	○	○	○		○																						
ゴマシジミ	○	○																									

⑥ シジミチョウ科

ニシジミ、ツバメシジミは明るい草原を好みマメ科植物を食草とする。カバイロシジミはB地区の以久科原生花園とC地区の大柴に分布が限られており日向を好む。コツバメはエゾノウミズザクラを食草とし山間に多く分布している。ルリシジミはイタドリを食草とし明るい草原を好み平地に多く分布している。カラスシジミは夕刻に樹間を活発に飛び、B地区の以久科原生花園とE地区の以久科南に分布が限られている。オナガシジミ、ウスイロオナガシジミはナラを食樹とし早朝と夕刻に行動が活発になる。B地区の以久科原生花園とE地区の以久科南に分布が限られている。ジョウザンミドリシジミは海岸のカシワ、ミズナラを食樹とし樹上で生活し地表にはなかなか降りてこない。ウラゴマダラシジミの食樹はイボタ、ハシドイで林間を飛翔する。ゴマシジミはワレモコウを食草とし幼虫時期はアリによって巣

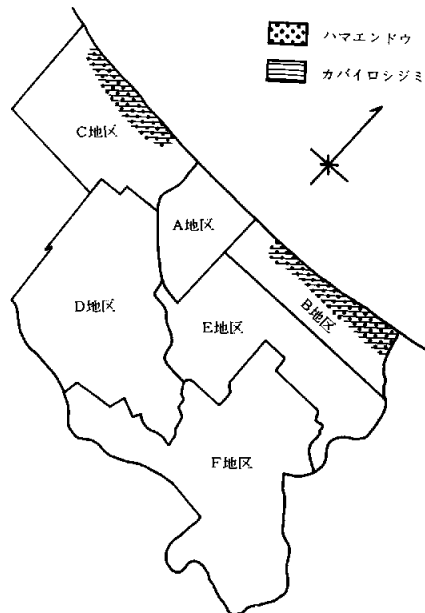
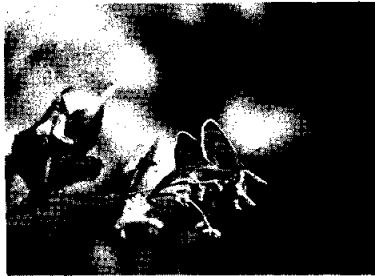


図 5 シジミチョウ科の分布の具体例 (カバイロシジミとハマエンドウ)

の中へ運ばれてアリの幼虫を食し蛹化してやがて羽化する。その他のシジミチョウ科の種類は資料不足のため記載しなかった。



オナガシジミの
一令幼虫とクル
ミの新芽



ヒメシジミの交
尾(右が雄、左
が雌)

6. 考察

蝶の中には広く分布するもの(キアゲハ、モンシロチョウ、クジャクチョウ)、分布が限られているもの(エゾヒメギフチョウなど)がある。これは地形、環境、食草に左右されると思われる。食草の環境条件がそろいしかも適応力、繁殖力が強ければそれによって蝶の分布は拡大される。又その逆であれば分布が限られる。

斜里の地形は海からすぐに山になる(つまり平地がない)という特異なものであるためこれらのことが蝶の分布に関係していると思われる。

斜里ではキアゲハ、ツマキチョウ、ヒメウラナミジャノメ、サカハチチョウなどのように日本の平均発生時期より一ヶ月程遅れているものが多い。これは日照時間と関係があると思われる。

コキマダラセセリは発生時期が半月程平均より早く発生しているが、これは発生回数が本州以南では年二回であるが斜里では年一回のためその分だけ早く発生すると思われる。

斜里では本州での高山性のものが低化している。例えばクジャクチョウ、コヒオドシ、オオイチモンジ、サカハチチョウ、ヒョウモンチョウ類ヒメキマダラセセリ、ベニヒカゲなどである。

なおウラジロミドリシジミ、ウラギンミドリシジミ、カラフトタカネキマダラセセリは斜里では確認されているが生物部では未確認なので記載しなかった。

7. 今後の課題

- ① 各科の分布と発生時期の表を完成させる。
- ② 斜里地方の発生時期の変化を調べる。(気温との関係)
- ③ アゲハチョウ科の蝶道を調べる。(マーキングを行う)

参考文献

- 藤岡知夫(1972)『図説日本の蝶』 ニューサイエンス社
- 若林守男、川副昭人(1976)『原色日本蝶類図鑑』保育社
- 横山光夫、(1954)『原色日本蝶類図鑑』保育社
- 藤岡知夫(1972)『原色原寸検索図 日本の蝶』主婦と生活社
- 白水 隆、若林守男他(1972)『原色日本昆虫生態図鑑Ⅲチョウ編』保育社
- 白水 隆、黒子 浩(1966)『標準原色図鑑全集Ⅰ蝶蛾』保育社
- 白水 隆(1975)『学研中高生図鑑昆虫Ⅰチョウ』学研
- 進 基(1972)『知床の蝶』